

日本語で書かれた農学系論文の序論に関する調査報告

渡邊 ゆかり

Survey Report on Introduction of Agricultural Research Paper Written by Japanese Language

Yukari WATANABE

1. はじめに

渡邊(2017)では、日本語で書かれた医学系論文の序論に関する調査報告を行った。これは、渡邊で述べたように、各学問分野によりアカデミック・ライティングの手法がどのように異なるのかを明らかにする取り組みの一環として行ったものである¹。今回は、渡邊の医学分野における論文の調査に引き続き、農学分野における日本語論文の序論に関する調査を行ったので、報告する。

2. 研究方法

2.1 調査対象とする論文

本調査では、以下の条件を満たす論文を調査対象とした。

〈調査対象とする論文の条件〉

CiNii Articles に登録された日本語論文のうち、2016年4月1日現在、オープンアクセス可能なもので以下のA-Cの下位条件をすべて満たすもの。

- A. 農学に分類されるもののうち公刊年が2013年のもの。
- B. 総ページ数(注、参考文献リスト等を含む)が6ページ以上20ページ以内のもの。
- C. 論文(概説, 調査報告, 研究ノートを含む)を対象とする。ただし、口頭発表用の論文, 雑誌の巻頭言, 講演録, 受賞記念論文, 回顧録は除く。

このような条件に合致する論文は136件であった。なお、これら136件の論文のID(NAID)は、稿末に添付する。

2.2 調査対象とする序論の定義

渡邊と同様、以下の①②のいずれかに該当するものを、「序論」とする²。

- ① 論文本文の冒頭にあり、「はじめに」「最初に」「緒言」といった、通常、序論をさすのに使用するタイトルの付いたセクション
- ② 論文本文の冒頭にあり、研究や論文の方向づけが記されている文(以下「方向づけ文」と称す)を含むセクション

その際、「要旨」というタイトルのセクションは、たとえ冒頭に置かれていたとしても、論文本文の冒頭セクションとして扱わないこととした。

なお、②の方向づけ文は、「研究の目的」「研究で行ったこと」「論文の目的」「論文で行う(行った)こと」のいずれかを記した文をさすものとする。これらの記述方法には、明示的なものから暗示的なものまで存在するが、渡邊同様、問題点を指摘しているだけの文や、体験、経験を述べているだけの文や、調査対象者のみが表示されている文は、方向づけ文とはみなさない³⁾。

2.3 調査・分析の観点

本研究では、以下の3つの観点から分析を行った。

観点1 序論のセクションの有無、段落数、タイトル

観点2 方向づけ文の初出段落

観点3 方向づけ文の表現類型

なお、本調査においても、渡邊と同様、次の(1) - (3)のように方向づけが明示的なものと、(4)のように方向づけが暗示的なものが存在した。

- (1) 以上の観点から本研究では、まず、この系統の機能性香気成分の含有量を対照品種と比較することによって、この系統が薬用紫蘇に相当するかを検証した。(110009646239)
- (2) 本論文では、岩手県沢内村、岩手県遠野市附馬牛町、山形県金山町における事例調査の結果をもとに、山村を「内発的発展」に導く条件について、「内発的発展論」と「コモنز論」を用いて考察する。(110009624384)
- (3) 本稿では、条件不利地域の中でも地理的、自然的な制約を受け、一層厳しい過疎問題に直面している森林地域を事例地に、そこで取り組まれている馬搬振興の実践分析をおこなっていくが、(110009611628)
- (4) このように、森林・林業政策が大きく転換していこうとする現局面において、地方の実態を丁寧に把握することは意義深い(田中 2012)。(110009624385)

(1) - (3) では、文全体あるいは独立性の高い従属節全体で方向づけを行っているのに対し、(4) では、方向づけの内容が、方向づけの必要性を表す文中に埋め込まれている。それゆえ、(4) の方向づけ文の内容は、語用論的に含意されてはいるものの、次の(5)のように、波線部を施した後文脈を加えることで、その含意を打ち消すことも可能である。

- (5) このように、森林・林業政策が大きく転換していこうとする現局面において、地方の実態を丁寧に把握することは意義深い。本稿では、将来的にそのような調査を行なうに先立ち、日本型フォレスター制度の概要を記す。

本調査では、渡邊と同様、観点2の調査を行う際、論文冒頭セクションに明示的方向づけ文が存在する場合には、この初出を、方向づけ文の初出として位置づける。また、暗示的方向づけ文しか存在しない場合は、暗示的方向づけ文の初出を、方向づけ文の初出として位置づける。

3. 調査結果

3.1 序論の有無・序論の分量・序論のタイトル

ここでは、まず、序論の有無についての調査結果を示す。2.2 項に示した「序論の認定条件」に合致する序論を含む論文は、今回調査対象とした136件すべてがこれに該当した。すなわち、調査対象とした論文の100%が2.2項で挙げた①②の少なくともいずれか1つの条件を満たしていた。①を満たす論文、②を満たす論文、①②のい

いずれも満たす論文の件数は、以下の表1の通りである。

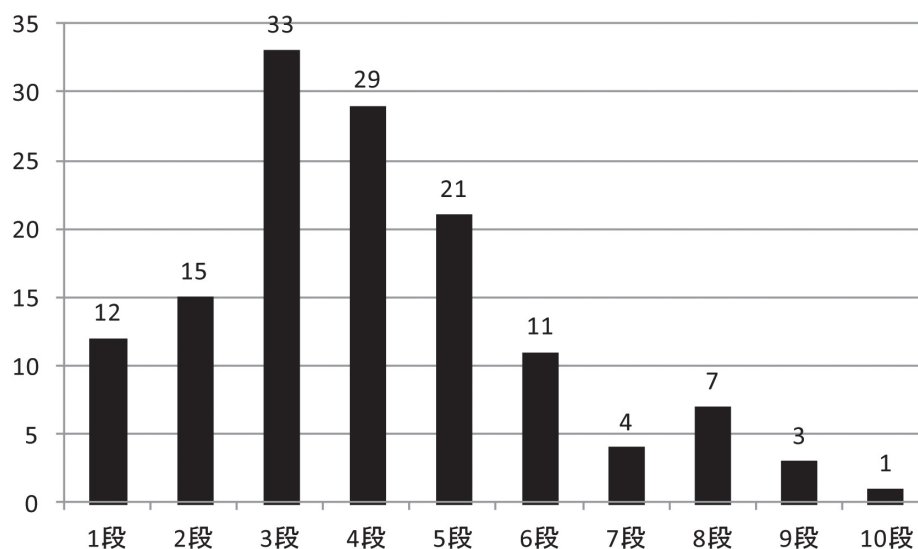
表1 序論の条件を満たす論文数と割合

①②のいずれかを満たす論文	136 件	100%
少なくとも①を満たす論文	120 件	約 88%
少なくとも②を満たす論文	135 件	約 99%
①②のいずれも満たす論文	119 件	約 88%

表1より、本文冒頭セクションで研究や論文の方向づけを行うことが極めて多いことがわかる。また、「はじめに」「最初に」「緒言」など、通常、序論をさすのに使用するタイトルを付したセクションを本文冒頭に置く割合もかなり多いことがわかる。

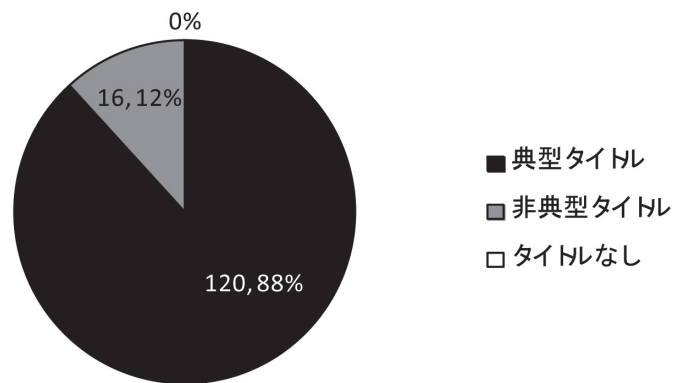
次に、序論の段落数を取り上げる。序論を含む論文として認定した136件について、序論の段落数を調査したところ、結果は、次のグラフ1の通りであった。

グラフ1に見るように、3段落構成の序論が最も多く、次いで4段落、5段落、6段落構成の順に多い。平均段落数は、約4段落であり、標準偏差は、1.96であった。



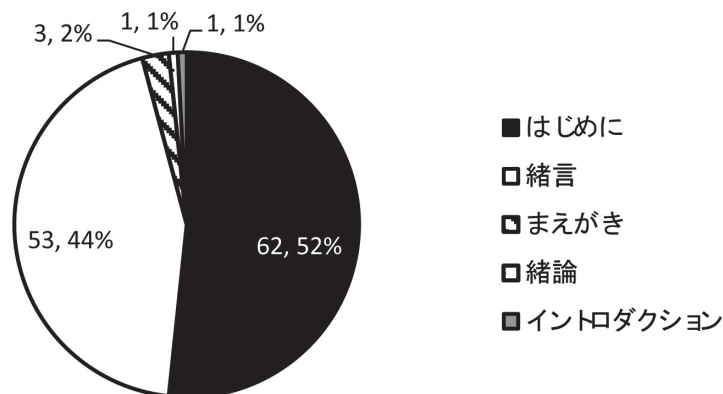
グラフ1 序論の段落数とそれぞれの段落数の序論数

最後に、序論のタイトルを取り上げる。序論として認定した136件について、タイトルを調査したところ、「『はじめに』『最初に』『緒言』といった、通常、序論をさすのに使用するタイトル」（以下「典型タイトル」と称す）、「通常、序論以外のセクションにも使用するタイトル」（以下「非典型タイトル」と称す）、「タイトルが付していないもの」（以下「タイトルなし」と称す）の割合は、次のグラフ2の通りであった。



グラフ 2 序論のタイトルのタイプ

グラフ 2 より、序論のタイトルとして典型タイトルを用いる比率が高いことがわかる。
典型タイトルに使用されていたタイトル名とその使用比率は、次のグラフ 3 の通りであった。



グラフ 3 典型タイトル名と使用比率

グラフ 3 に見るように、典型タイトルとして使用されていたのは、「はじめに」「緒言」「まえがき」「緒論」「イントロダクション」の 5 種類である。このうち「はじめに」が最も多く用いられており、次いで多かったのが「緒言」であった。また、「まえがき」「緒論」「イントロダクション」の使用率は、極めて低かった。なお、「はじめに」を使用した序論の中には、タイトルつき下位セクションを含むものが 2 例存在したが、いずれも「はじめに」と同等のものとしてカウントした。

一方、非典型タイトルを用いた序論は、16 例であった。タイトル名と使用頻度は以下の通りである。

表 2 非典型タイトル名と使用頻度

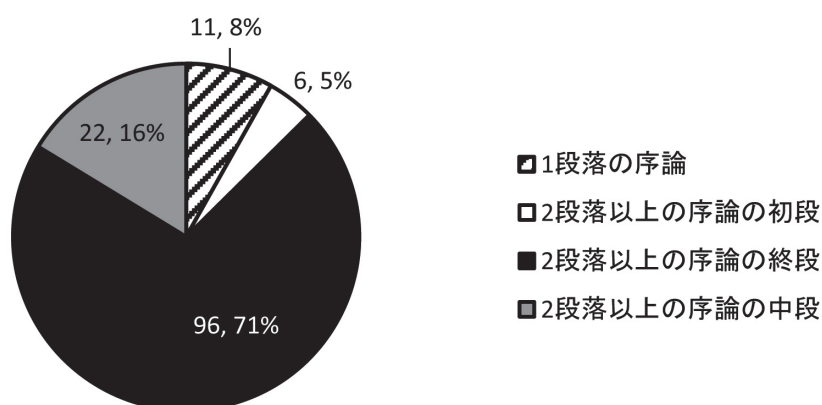
研究の背景と目的	4
背景と目的	3
背景と課題	2
背景, 課題, 目的	1
研究の背景と課題	1
研究の視点と課題	1
課題の設定と事例企業の概要	1
課題の設定	1
課題と目的	1
課題	1

これら 16 例の中で最もよく使用されていた語は、「背景」で、11 例のタイトルに使用されていた。次いでよく使用されていたのが、「目的」と「課題」で、いずれも 9 例のタイトルに使用されていた。なお、これら 16 例の中には、タイトルつき下位セクションを含むものが 3 例存在した。タイトルつき下位セクションが存在したのは、「研究の視点と課題」「課題の設定と事例企業の概要」「課題の設定」であるが、いずれも「研究の視点と課題」「課題の設定と事例企業の概要」「課題の設定」として扱った。

以上、3.1 項では、序論の有無、序論の段落数、序論のタイトルについての調査結果を見てきた。次の 3.2 項では、方向づけ文の初出段落についての調査結果を見ていく。

3.2 方向づけ文の初出段落

本稿で、序論と認定した 136 件の序論のうち、方向づけ文を含むものは、135 件であった。この 135 件について、方向づけ文の初出が何段落目に現れているかを調査したところ、結果はグラフ 4 の通りであった。



グラフ 4 方向づけ文の初出段落

グラフ 4 より、2 段落以上の序論では、方向づけ文が、主に終段に初出することが読み取れる。また、終段に初出しない場合も、初段に初出することは少ない。2 段落以上の序論や中段に方向づけ文が初出する序論では、

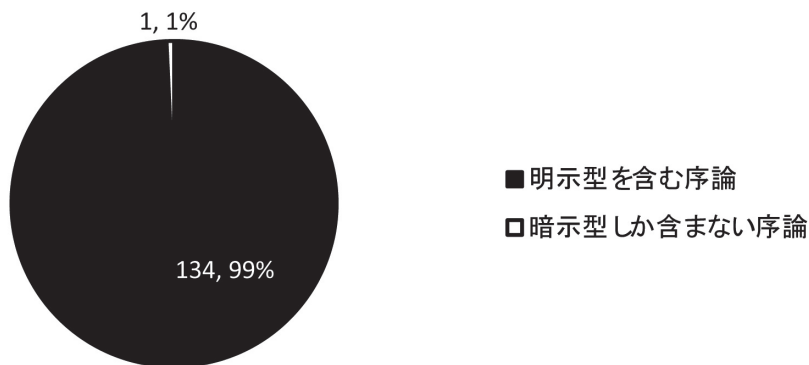
方向づけ文の初出段落より前の段落で研究の背景が述べられていた。さらに、2 段落以上の序論の初段に方向づけ文が初出する序論 6 件については、方向づけ文が 1 文目に初出するものが 3 件、方向づけ文が 2 文目以降に登場するものが 3 件存在した。後者の 3 件については、研究の背景を表す文がこれに先行していた。さらに、1 段落の序論 11 件については、方向づけ文は、いずれも 1 文目には初出せず、必ず、研究の背景を表す文がこれに先行していた。

以上、3.2 項では、方向づけ文の初出段落についての調査結果を見てきた。次の 3.3 項では、方向づけ文の表現類型についての調査結果を見ていく。

3.3 方向づけ文の表現類型

3.3.1 明示的方向づけ文を含む序論と暗示的方向づけ文しか含まない序論の割合

まず、方向づけ文を含む序論 135 件のうち、明示的方向づけ文を含む序論と暗示的方向づけ文しか含まない序論の割合を取り上げる。両者の割合は、以下のグラフ 5 の通りであった。



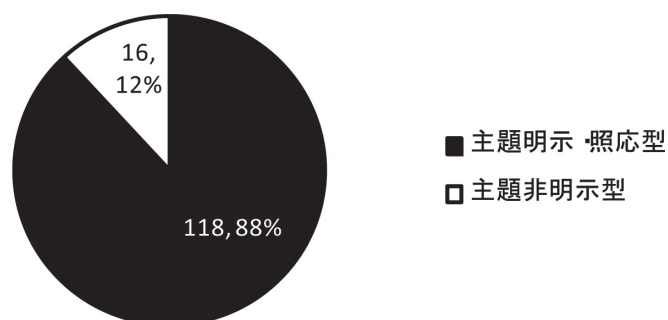
グラフ 5 明示的方向づけ文を含む序論と暗示的方向づけ文しか含まない序論の割合

グラフ 5 より、暗示的方向づけ文しか含まない序論は、わずか 1 例で、明示的方向づけ文を含む序論の方が圧倒的に多いことがわかる。

3.3.2 明示的方向づけ文の表現類型

次に、明示的方向づけ文に用いられる表現類型を取り上げる。

まず、方向づけ文の主題について、「主題が明示されているもの、照応する先行詞から主題が予測できるもの」と「主題が非明示的なもの⁴」の割合を調べたところ、結果は、次のグラフ 6 の通りであった。



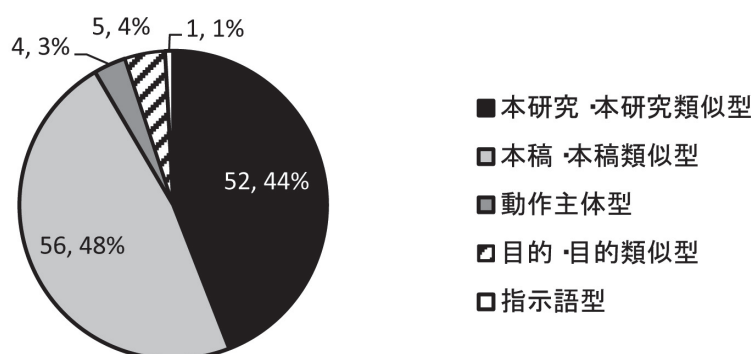
グラフ 6 明示的方向づけ文の主題の明示性

グラフ 6 に見るように、明示的方向づけ文では、主題を明示することが多いものの、主題を明示しない方向づけ文もある程度存在している。

続いて、主題が明示されていたり、照応する先行詞から主題が予測できる方向づけ文において、どのような主題が用いられているかを調査したところ、結果は、次の表 2 ならびにグラフ 7 の通りであった。

表 2 明示的方向づけ文の主題の表現バリエーション

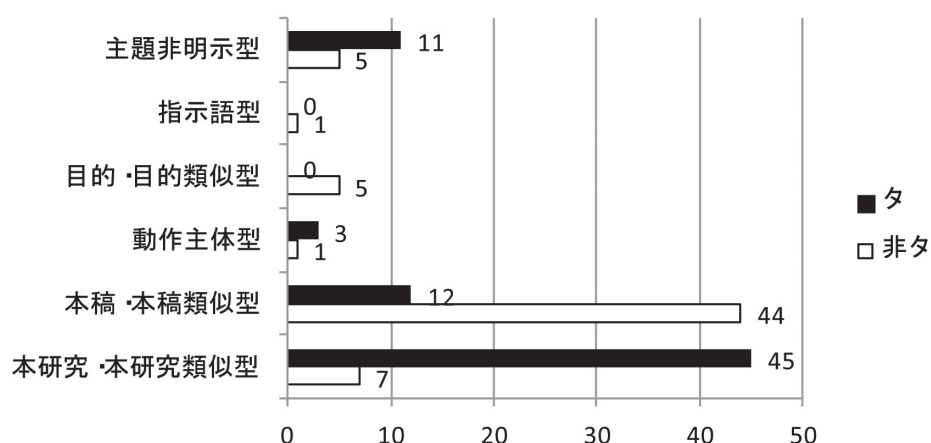
本研究・本研究類似型	本研究では (40), 本研究は (5), 本試験では (5), 本研究において (1), 本実験では (1)
本稿・本稿類似型	本稿では (29), 本論文では (9), 本報告では (5), 本総説では (3), 本報では (2), 本論では (2), 本稿においては (1), 本稿は (1), 本小論では (1), 本報告は (1), 本論文は (1), ~シリーズは (1)
動作主体型	著者らは (2), 筆者は (1), 筆者らは (1)
目的・目的類似型	本稿の課題は (1), 本稿の目的は (1), 本稿を執筆した第一の動機は (1), 本論文の目的は (1), 本報の目的である (1)
指示語型	ここでは (1)



グラフ 7 明示的方向づけ文の主題のバリエーション

表 2 ならびにグラフ 7 に見るように、主題には、大きく「本研究・本研究類似型」「本稿・本稿類似型」「動作主体型」「目的・目的類似型」「指示語型」の 5 つのバリエーションが存在した。また、これらのうち「本研究・本研究類似型」の主題が最も多く用いられていた。

続いて、明示的方向づけ文の述語のテンスについての調査結果を示す。次のグラフ 8 は、「本研究・本研究類似型」「本稿・本稿類似型」「動作主体型」「目的・目的類似型」「指示語型」「主題非明示型」の主題と呼応する、タ形述語、非タ形述語の出現数を示している。



グラフ 8 明示的方向づけ文の述語のテンス

グラフ 8 より、「本研究・本研究類似型」では、タ形述語がより多く用いられているのに対し、「本稿・本稿類似型」では、逆に非タ形述語がより多く用いられていることがわかる。

続いて、明示的方向づけ文の述語の文末形式についての調査結果を示す。次の表 3 は、「本研究・本研究類似型」「本稿・本稿類似型」「動作主体型」「目的・目的類似型」「指示語型」の主題と呼応する、述語の文末バリエーションを示している。

表 3 明示的方向づけ文の述語の表現バリエーション

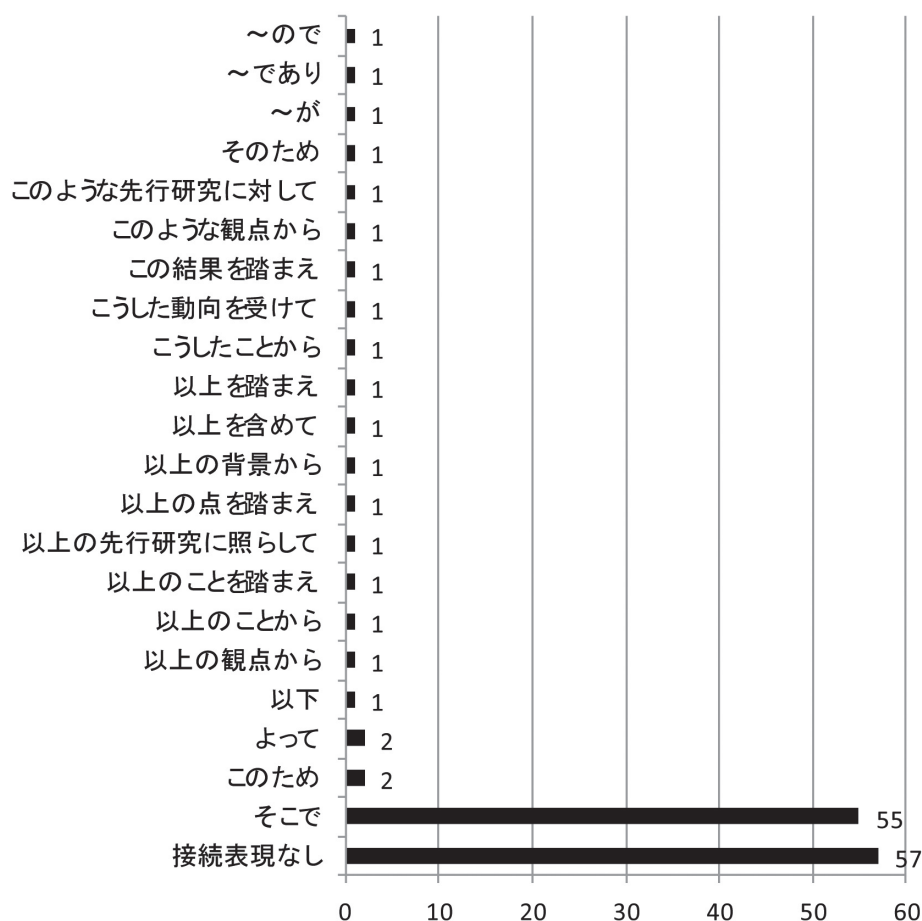
本研究・本研究類似型	本動詞 ⁵ の非丁寧・過去形 (31), 目的とした (12), 本動詞の非丁寧・非過去形 (5), 明らかにした (1), 検討している (1), こととした (1), ものである (1)
本稿・本稿類似型	本動詞の非丁寧・非過去形 (24), 目的とする (8), 本動詞の非丁寧・過去形 (7), 課題とする (4), 目的とした (4), 本動詞 - たい (2), 本動詞 - ていく (2), 本動詞 - ていきたい (1), 明らかにする (1), 課題とした (1), ことにする (1), ものである (1)
動作主体型	本動詞の非丁寧・非過去形 (1), 本動詞の非丁寧・過去形 (1), 本動詞 - ってきた (1), 明らかにした (1)
目的・目的類似型	ことである (3), 本動詞の非丁寧・非過去形 (1), 目的である (1)
指示語型	本動詞の非丁寧・非過去形 (1)

表 3 に見るように、「本研究・本研究類似型」の主題は、本動詞の非丁寧・過去形で終わる述語と呼応することが多く、「本稿・本稿類似型」の主題は、本動詞の非丁寧・非過去形で終わる述語と呼応することが多く、「目的・目的類似型」の主題は、「ことである」で終わる述語と呼応することが多い。なお、目的・目的類似型の述語とし

て用いられていた「目的である」は、次の(6)のように、強調構文の述語として用いられていたもので、述語自体がこの文の主題に相当する。

- (6) いずれの要因の場合でも、結果的に塩類集積となるのは無機イオンであるので、無機イオンの種類と施用量を変えて、土壤微生物特性に及ぼす影響を解析しようとしたのが本報の目的である。(110009615643)

最後に、明示的方向づけ文の導入方法についての調査結果を示す。先に述べたように、方向づけ文は、研究背景を記述した後に初出する傾向にある。また、直接、研究背景に続いて初出することもある。研究背景と関わる問題点の指摘に続いて初出する場合や、研究背景と関わる経験・体験に続いて初出することもある。が、いずれにしろ、方向づけ文と先行文脈は、意味的には、順接関係にあるため、方向づけ文を導入する際には、しばしば、文頭に順接表現が置かれる。以下のグラフ9は、明示的方向づけ文の文頭に置かれる接続表現と使用頻度を示している。



グラフ9 明示的方向づけ文の文頭に置かれる接続表現と使用頻度

グラフ9より、接続表現を伴う方向づけ文が接続表現を伴わない方向づけ文を上回っていることがわかる。また、接続表現の中では、順接の意を持つ「そこで」の使用が顕著であることがわかる。

3.3.3 暗示的方向づけ文の表現類型

次に、暗示的方向づけ文に用いられる表現類型を取り上げる。暗示的方向づけ文は、3.3.1 項で示したように、1 例しか存在しなかった。2.3 項で挙げた (4) がこれに相当する。

これは、渡邊で示した暗示的方向づけ文の表現類型 2 種のうち、必要性の提示文に相当する。医学系論文を対象とした渡邊の調査で見つかった、もう一つの暗示的方向づけ文の表現類型に当たる成果の提示文は、農学系論文を対象とした今回の調査では、見つからなかった。接続表現については、(4) に示す通り、「このように」が使用されていた。

なお、このような暗示的方向づけ文しか含まない序論に続くセクションのタイトルは、「分析の枠組み」で、方向づけを目的とするセクションではなかった。

3.3.4 方向づけ文を含まない序論の特徴

最後に、方向づけ文を含まない序論の記述的特徴を見ていく。3.2 項で述べたように、本稿で、序論と認定した 136 件の序論のうち、方向づけ文を含むものは、135 件である。つまり、方向づけ文を含まない序論は 1 件のみであった。

医学系論文を対象とした渡邊では、このような序論の記述内容として以下の 4 種が存在したが、農学系論文を対象とした今回の調査では、これらのうち、「研究の背景+背景と関わる問題点指摘」のみしか存在しなかった。

- 研究の背景+背景を根拠とする研究対象
- 研究の背景+背景と関わる経験報告
- 研究の背景+背景と関わる問題点指摘
- 研究の背景のみ

次の (7) がこれに該当する。

- (7) 栄養塩類の豊富な補償深度以深の海水を補償深度以浅に混合するため、人工の山脈を海底に構築し潮流や海流などの流れエネルギーを利用して海域の基礎生産を増大する公共事業が行われている。この人工海底山脈を構築する事業は、(中略) 既往事業においても、散乱を減少させる工夫が試みられた。例えば、作業船から同時に投入するブロックや石材の数を減らし投入開始範囲を狭め、船底の開口速度を調節して開口幅を段階的に広げる方法等が試みられたが、効果は限定的であった。これまで、ブロックや石材の散乱を抑える対策は作業船上での操作に限られ、投入後、落下するブロックの運動を制御して散乱を抑える研究はなかった。(110009686665)

なお、このような序論に続く次のセクションのタイトルは、「実験方法」であり、方向づけを目的とするセクションではなかった。

以上、第 3 節では「序論のセクションの有無、段落数、タイトル」「方向づけ文の初出段落」「方向づけ文の表現類型」の三つの観点からの調査結果を示してきた。次の第 4 節では、本調査結果に対する分析を行う。

4. 分析

一つ目の「序論のセクションの有無、段落数、タイトル」という観点の調査からは、まず、今回調査対象とした農学系論文において、以下の①を含む論文が約 88%、②を含む論文が約 99%と多くを占めていることが明らかとなった。

- ① 論文本文の冒頭にあり、「はじめに」「最初に」「緒言」といった、通常、序論をさすのに使用するタイトルの付いたセクション
- ② 論文本文の冒頭にあり、方向づけ文を含むセクション

また、①②のいずれかを含む論文は 100%、①②のいずれも含む論文は約 88%であった。

次に、序論の段落数については、3 段落構成の序論が最も多く、次いで 4 段落構成、5 段落構成、2 段落構成の順に多いことが明らかとなった。最後に、序論のタイトルについては、通常、序論を指すのに使用するタイトルとして、「はじめに」「緒言」「まえがき」「緒論」「イントロダクション」の 5 種類が用いられており、中でも「はじめに」「緒言」が多く使用されていた。

これらのことから、農学系論文においては、渡邊で見た医学系論文と同様、序論として、「はじめに」「緒言」というタイトルの付いたセクションや、方向づけ文を含むセクションを置く傾向にあると見ることができる。また、このようなセクションは、3 段落～5 段落で構成されることが多く、中でも 3 段落が特に好まれる傾向にある。渡邊で見た医学系論文と比較すると、3 段落構成が最も多い点は両方で共通するが、次いで多い段落数は異なっており、農学系論文の方が医学系論文よりも段落数がやや多くなる傾向が見られた。

続いて二つ目の「方向づけ文の初出段落」という観点からの調査からは、まず、2 段落以上の序論では、方向づけ文が終段に現れやすいことが明らかとなった。次に、方向づけ文が 2 段落以上の序論の初段に初出する場合や、1 段落構成の序論に初出する場合については、初段の 1 文目に登場するものと 2 文目以降に登場するものが存在したが、前者が 3 件、後者が 14 件と、後者の方が多かった。また、後者の 14 件については、いずれの場合も方向づけ文に先行して研究の背景が述べられていた。

これらのことから、農学系論文においても、渡邊で見た医学系論文同様、研究の背景を記述した上で方向づけを行うことが一般的であるとともに、終段で方向づけを行う傾向にあると見ることができる。

最後に、三つ目の「方向づけ文の表現類型」という観点からは、方向づけ文は、ほぼ明示的方向づけ文で暗示的方向づけ文は 1 例と極めて少ないことが明らかとなった。また、明示的方向づけ文については、以下のことが明らかとなった。

- 主題を明示することの方が多く、主題を明示しない方向づけ文もある程度存在する。
- 主題には、大きく「本研究・本研究類似型」「本稿・本稿類似型」「動作主体型」「目的・目的類似型」「指示語型」の 5 種類のバリエーションが存在し、この中では、「本稿・本稿類似型」が最も多いものの、「本研究・本研究類似型」との差はあまりない。
- 「本研究・本研究類似型」ではタ形述語がよく用いられるのに対し、「本稿・本稿類似型」「目的・目的類似型」では非タ形述語がよく用いられる。
- 方向づけ文の導入に際し、文頭に接続表現を伴わないことも少なくないが、接続表現を伴うことの方が多い。また、用いられる接続表現の中で、順接の意を表す、「そこで」が最もよく使用されている。

これらのことから、農学系論文では、明示的方向づけ文の表現類型として非タ形述語と呼応しやすい「本稿・本稿類似型」の主題を取る文と、タ形述語と呼応しやすい「本研究・本研究類似型」の主題を取る文が、共によく用いられる傾向にあると見ることができる。主題を明示しない方向づけ文や、文頭に接続表現を伴わない方向づけ文の割合は、渡邊で見た医学系論文よりは低く、文章間の論理関係の把握を読者の推測に委ねた記述スタイル

は、医学系論文ほどは浸透していないように見受けられる。

一方、暗示的方向づけ文しか含まない序論中の方向づけ文については、該当例が1件しか存在しなかったため、特段の傾向をつかむことはできなかった。また、方向づけ文そのものが存在しない序論についても1件しか存在しなかったため、特段の傾向をつかむことはできなかった。

以上、農学系論文の序論の特徴について、「序論のセクションの有無、段落数、タイトル」「方向づけ文の初出段落」「方向づけ文の表現類型」の三つの観点から分析を行ってきた。これらの分析をさらにまとめると、以下のことが言える。

農学系論文では、主に3段落～5段落で構成される、「はじめに」「緒言」といったタイトルのセクションを、序論として冒頭に置く傾向にあり、そこでは、研究の背景記述や、研究あるいは論文の方向づけが行われる傾向にある。

また、方向づけ文には、明示的方向づけ文と暗示的方向づけ文が存在するが、主に前者を用いる傾向にある。明示的方向づけ文の主題には、「本研究・本研究類似型」「本稿・本稿類似型」「動作主体型」「目的・目的類似型」「指示語型」があり、非タ形述語と共起しやすい「本稿・本稿類似型」とタ形述語と共起しやすい「本研究・本研究類似型」が共によく使用される。明示的方向づけ文の中には、主題を明示していないものや、方向づけ文の導入に際し、接続表現を文頭に置かないものもあるが、この比率は医学系論文より低い。従って、文章間の論理関係の把握を読者の推測に委ねた記述スタイルは、医学系論文ほどは浸透していないと考えられる。

5. おわりに

以上、本稿では、農学系論文の序論について、「序論のセクションの有無、段落数、タイトル」「方向づけ文の初出段落」「方向づけ文の表現類型」の三つの観点から、調査に基づく分析を行った。その結果、第4節で述べたことが明らかとなった。本結果は、渡邊でも述べたが、今後、異なる学問分野における序論のプロトタイプを比較する上での基礎資料となる。

今後は、他の学問分野における序論についても同様の調査・分析を行っていき、異なる学問分野間の序論の相違を明らかにしていきたい。

注

¹ 本研究の動機については、渡邊の「1. はじめに」を参照されたい。

² このような定義を行った理由については、渡邊「2.2 調査対象とする序論の定義」を参照されたい。

³ 渡邊では、問題点を指摘しているだけの文、体験、経験を述べているだけの文、調査対象のみ示されている文として、次の(i) - (iii)の例を挙げた。

- (i) しかし、過去の重症児の父親に関する研究において、父親役割を遂行するための調整過程の詳細は十分検討されていない。(110009634892, 渡邊の(1))
- (ii) 今回、我々は植物性脂肪を主成分とした栄養食品の摂取によって発症し、Mycobacterium fortuitum感染を合併した外因性リポイド肺炎を経験した。(110009597487, 渡邊の(3))
- (iii) 本研究では小児看護経験が豊富な看護師として、「中堅レベル」の次の段階である「達人レベル」に該当する看護師を対象に調査することが望ましいと考え、その目安として小児看護経験が5年以上の看護師に依頼することとした。(110009634899, 渡邊の(4))

⁴ 本稿では、「照応する先行詞から主題が予測できるもの」は、「主題が非明示的なもの」には含めないこととする。

- ⁵ ここでは、「取り上げる」のような複合動詞「発現させる」のような態を表す助動詞を含む動詞も本動詞として扱うが、格助詞「に」「と」に接続して用いる自立性の低い「する」「なる」は、本動詞に含めないものとする。

参考文献

- 学習技術研究会 (2015) 『知へのステップ第 4 版—大学生からのスタディ・スキルズ—』 くろしお出版
新村出編 (2008) 『広辞苑第 6 版』 岩波書店
中澤務ほか編 (2007) 『知のナビゲーター—情報と知識の海 - 現代を航海するための—』 くろしお出版
日本看護協会編 (2013) 『看護実践研究・学会発表のポイント Q & A 下巻—論文作成から投稿へ—』 日本看護協会出版会
日本国語大辞典第 2 版編集委員会編 (2001) 『日本国語大辞典第 2 版』 第 7 巻 小学館
浜田麻里ほか (1997) 『大学生と留学生のための論文ワークブック』 くろしお出版
渡邊ゆかり (2017) 「日本語で書かれた医学系論文の序論に関する調査報告」 広島女学院大学大学院言語文化研究科編『広島女学院大学言語文化論叢』 20 (公刊予定)

調査対象とした論文の NII 論文 ID (NAID)

110009592995	110009594948	110009866198	110009661933
110009592996	110009594949	110009866199	110009661934
110009592998	110009594951	110009866200	110009661935
110009624384	110009594952	110009866201	110009616362
110009624385	110009636009	110009866202	110009845992
110009624386	110009636011	110009866203	110009845996
110009646236	110009636015	110009866204	110009846004
110009646239	110009636016	110009866205	110009846005
110009646240	110009636017	110009866206	110009846012
110009646242	110009686662	110009866207	110009846017
110009611628	110009686665	110009866211	
110009688445	110009686666	110009866212	
110009624630	110009586184	110009866213	
110009615643	110009586185	110009866214	
110009615645	110009586186	110009866215	
110009615646	110009586187	110009866216	
110009615647	110009597464	110009866217	
110009970232	110009597465	110009660536	
110009970233	110009597466	110009660537	
110009685415	110009597467	110009804552	
110009685416	110009624847	110009804553	
110009685417	110009624848	110009804555	
110009685418	110009624849	110009799104	
110009685419	110009624850	110009596189	
110009635340	110009661316	110009596190	
110009635341	110009661317	110009596191	
110009635342	110009661318	110009596192	
110009635343	110009579072	110009615079	
110009805209	110009579073	110009934907	
110009603665	110009579074	110009934908	
110009603668	110009579075	110009934909	
110009604524	110009579076	110009686066	
110009686130	110009579077	110009686067	
110009603491	110009604204	110009686068	
110009603492	110009604205	110009596892	
110009649307	110009604206	110009596893	
110009686096	110009604207	110009596894	
110009686097	110009604208	110009596895	
110009686098	110009631372	110009596896	
110009686103	110009866195	110009596897	
110009686104	110009866196	110009635553	
110009686105	110009866197	110009635576	